



S-Series V3.0.9 Release Notes

June 2022

■目次

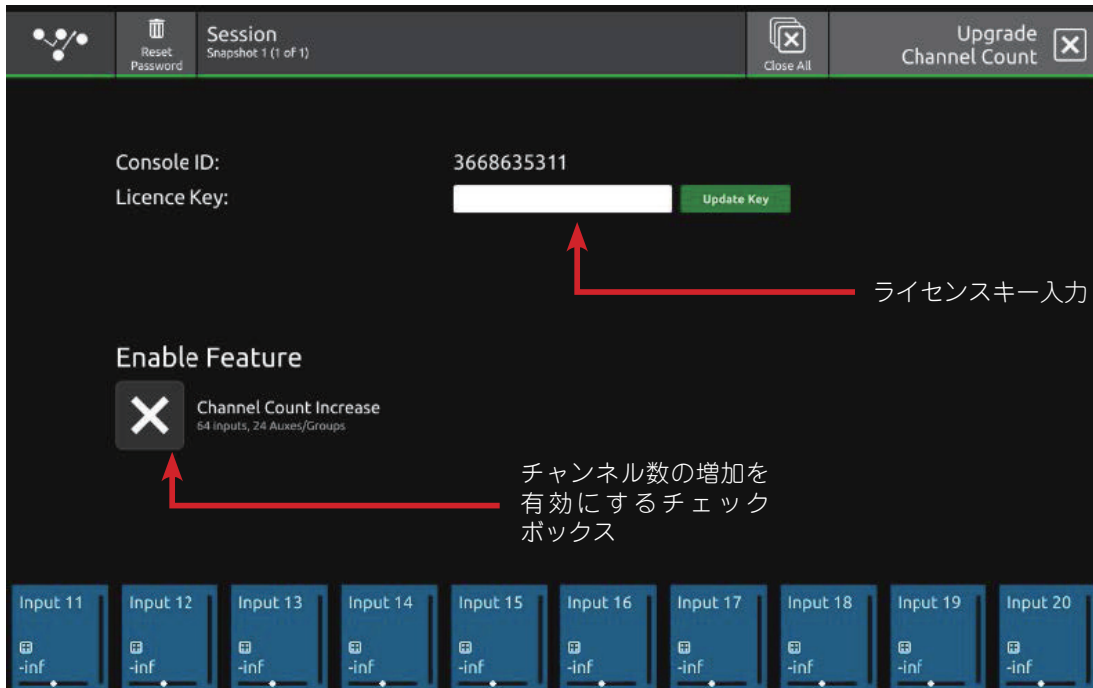
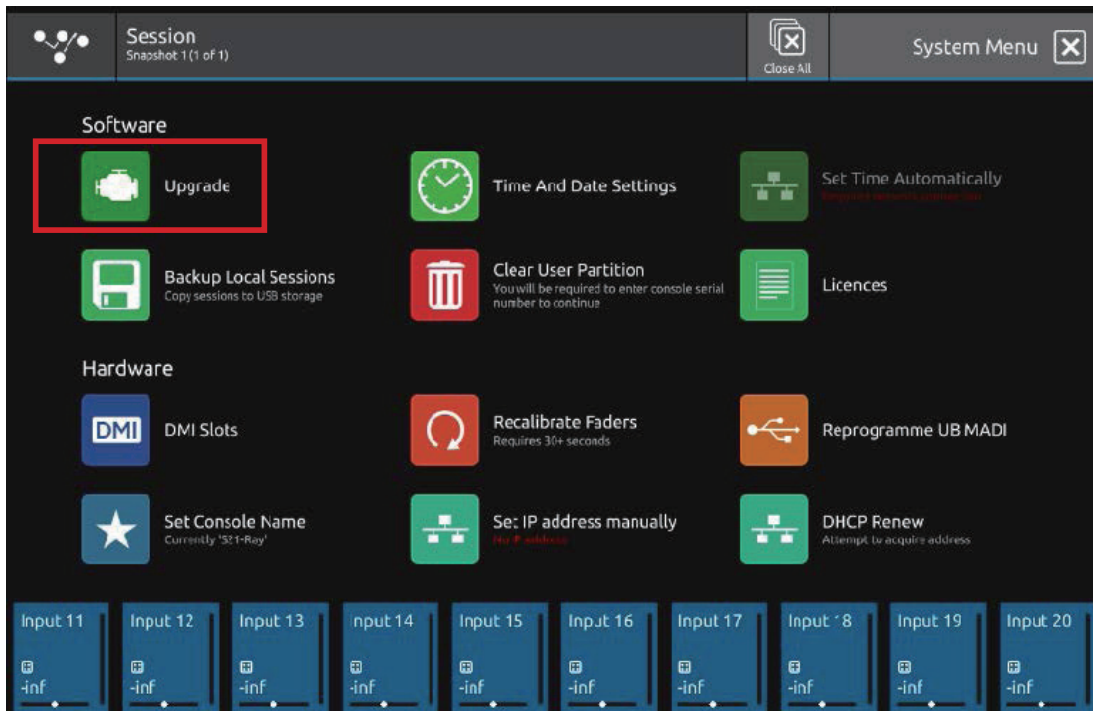
1.1 チャンネル数の増加.....	3
1.2 LCR/LRM マスターバス	5
1.3 MADI SRC	8
1.4 GPIO.....	10
1.5 OSC コントロール.....	12
1.6 DQ Rack の互換性	16
1.7 その他の新機能	16
1.8 S21/S31 ソフトウェアとファームウェアのアップデート.....	17

V2.6.1 以降に修正された問題

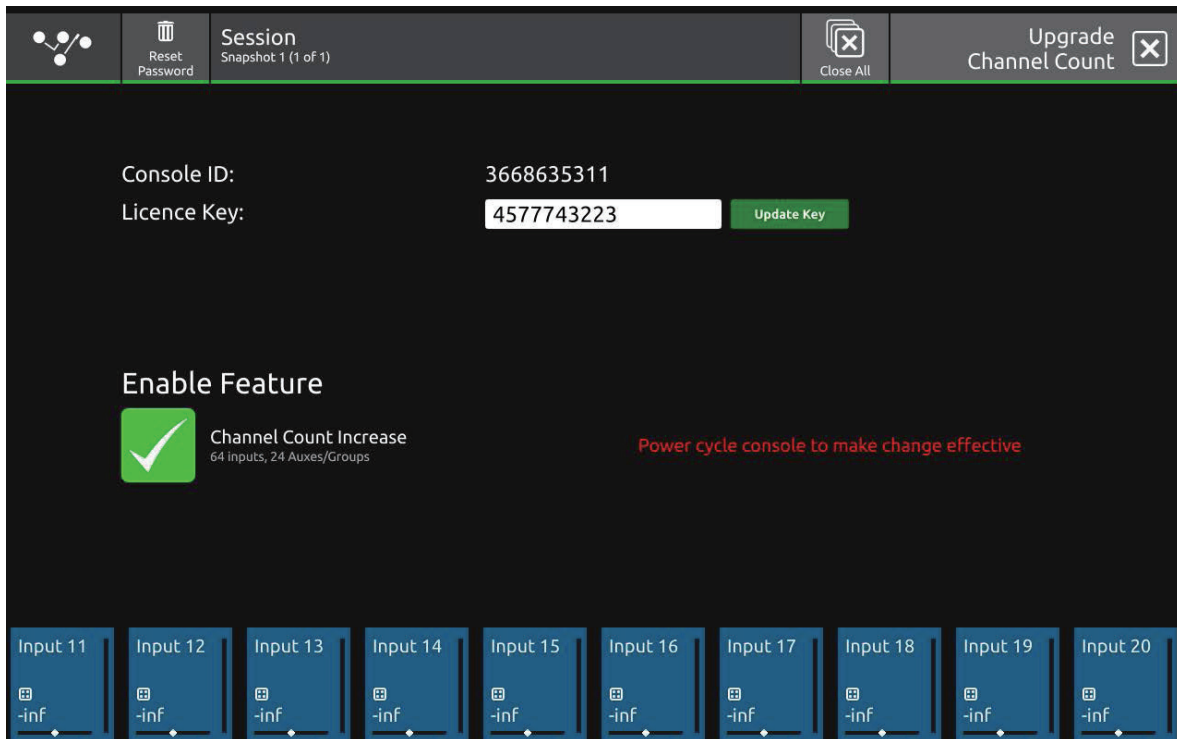
- アクティブな Spill Set からチャンネルをアサイン解除しても、解除されたチャンネルの左側にあるチャンネルのフェーダーがプルダウンされなくなりました。
- DMI マイocardは、電源再投入後、正しいゲイン値を呼び出すようになりました。

1.1 チャンネル数の増加

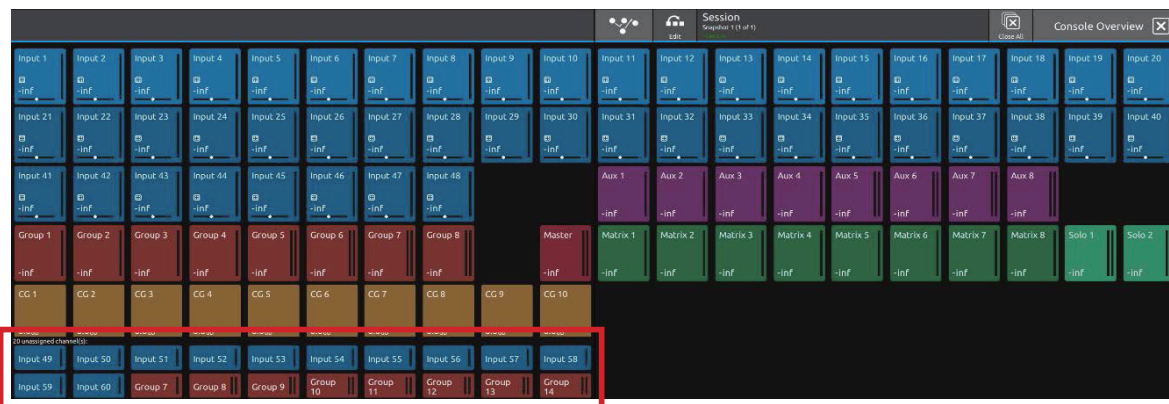
V3.0.9 では、ライセンスキーを購入することで、コンソールの最大チャンネル数を増やすことができます（最大 60 インプットチャンネル、24 Aux/group パスを含む）。この機能を利用するには、設定メニューの「Upgrade」セクションに移動します。



アップグレードセクションに入ると、上記のような画面が表示され、有効なライセンスキーを入力するボックスと「Enable Feature」チェックボックスが表示されます。



有効なライセンスキーをコンソールに入力した後、「Channel Count Increase」のチェックボックスを押すと、チャンネル数を増加した状態でアップグレードできます。コンソールは、シャットダウンと再起動を求め、増加したチャンネル数になります。



コンソールをアップグレードすると、チャンネルレイアウトは上記のようになり、追加されたチャンネルとバスは Overview ページの Unassigned channels セクションに表示されます。

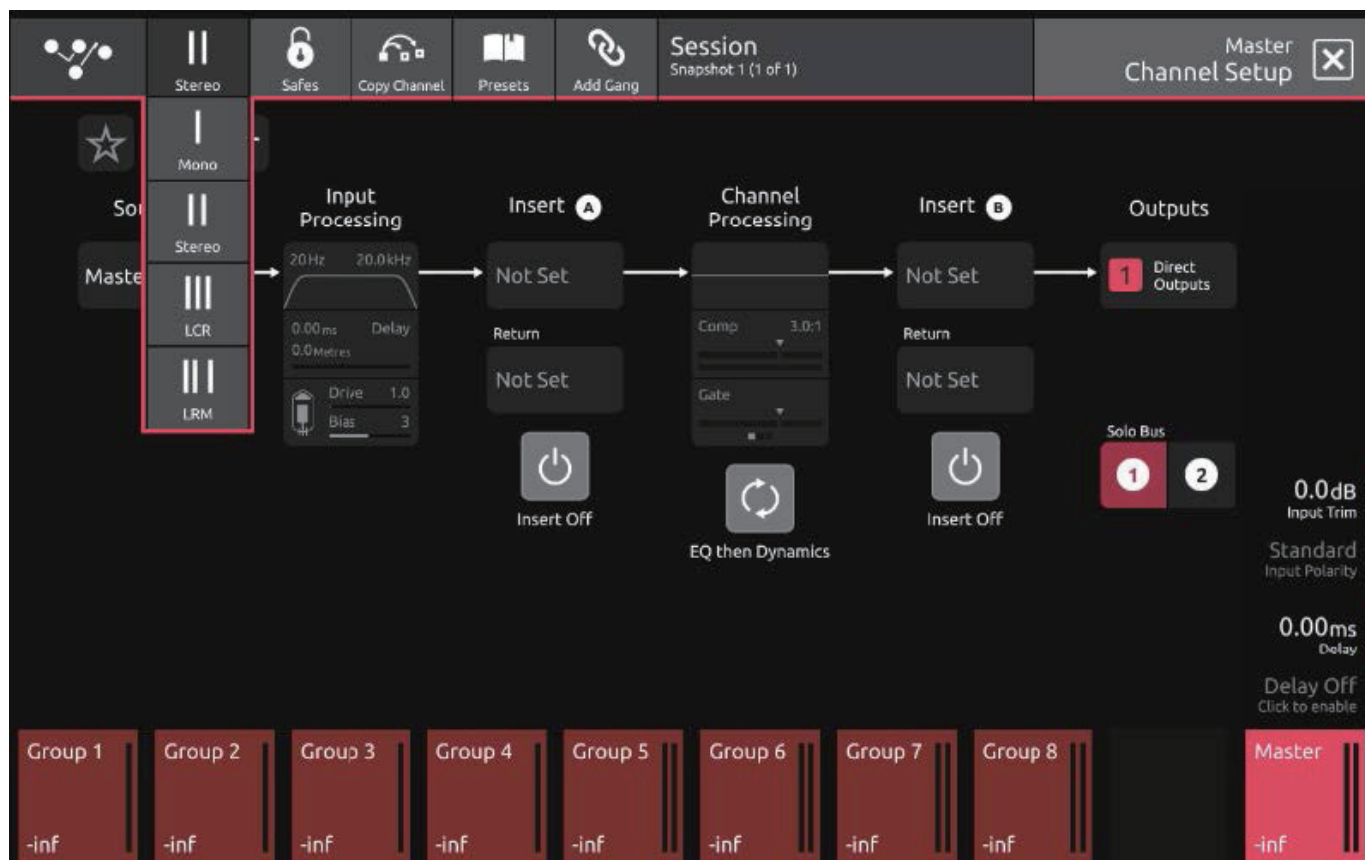
重要：追加された 8 つのバスにはデフォルトの名前がついており、これらは上記の画像の Groups 7 と 8 のように既存のバスと同じ名前になっている可能性があります。これらのバスは、混乱を避けるために名前を変更する必要があります。追加バスのデフォルトセットは、1 つのモノラルと 7 つのステレオグループで構成されていますが、これらは通常通りの方法でグループまたは Aux モードでモノラルまたはステレオにいつでも変更することが可能です。

60/24 モードにアップグレードした後、コンソールを 48/16 モードに戻すと、入力 Ch 49-60 と Busses 17-24 は使用できなくなります。

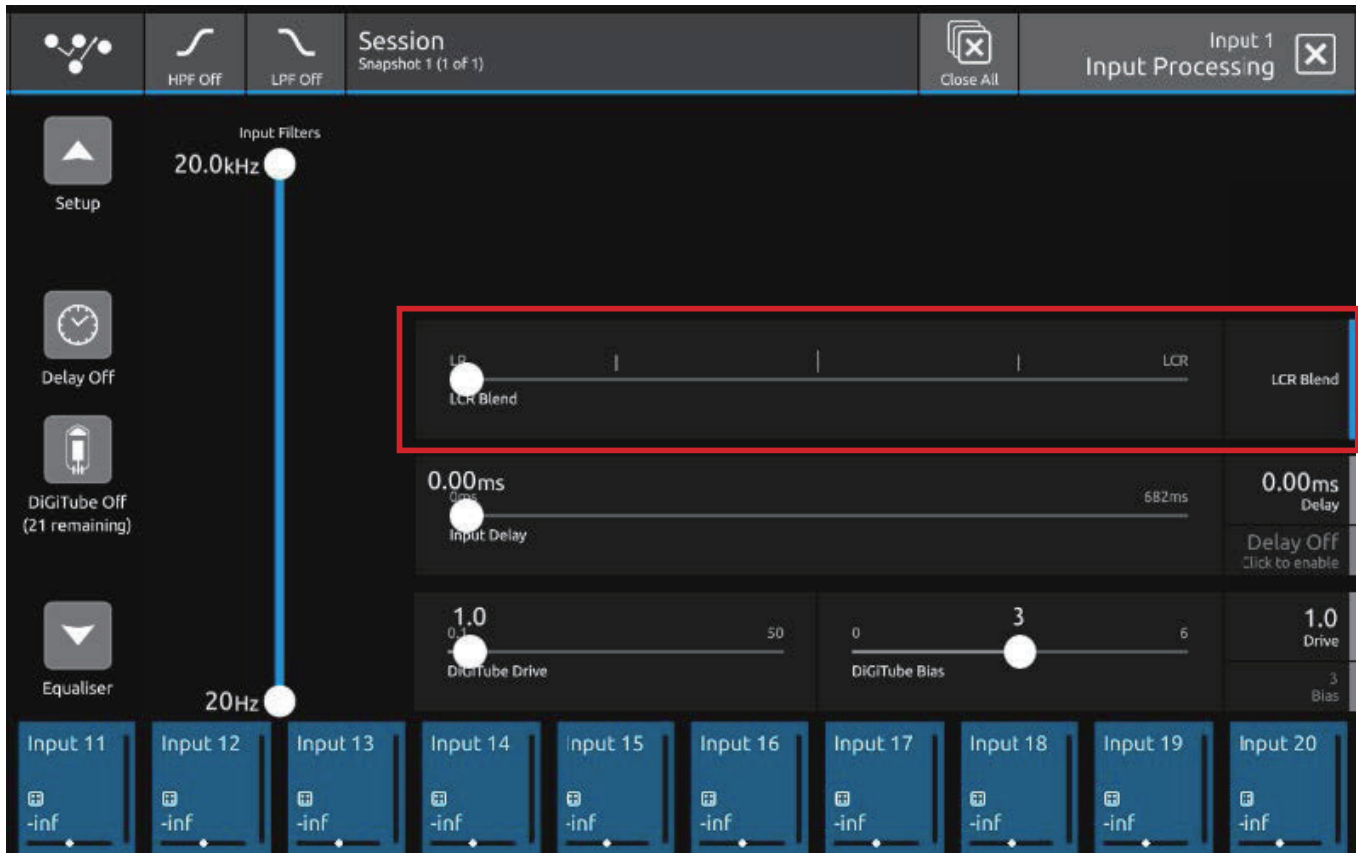
S-Series iPad アプリを使用している場合、コンソールのチャンネル / バス番号のモードが変更されたら、アプリを終了して再起動する必要があります。

1.2 LCR/LRM マスターバス

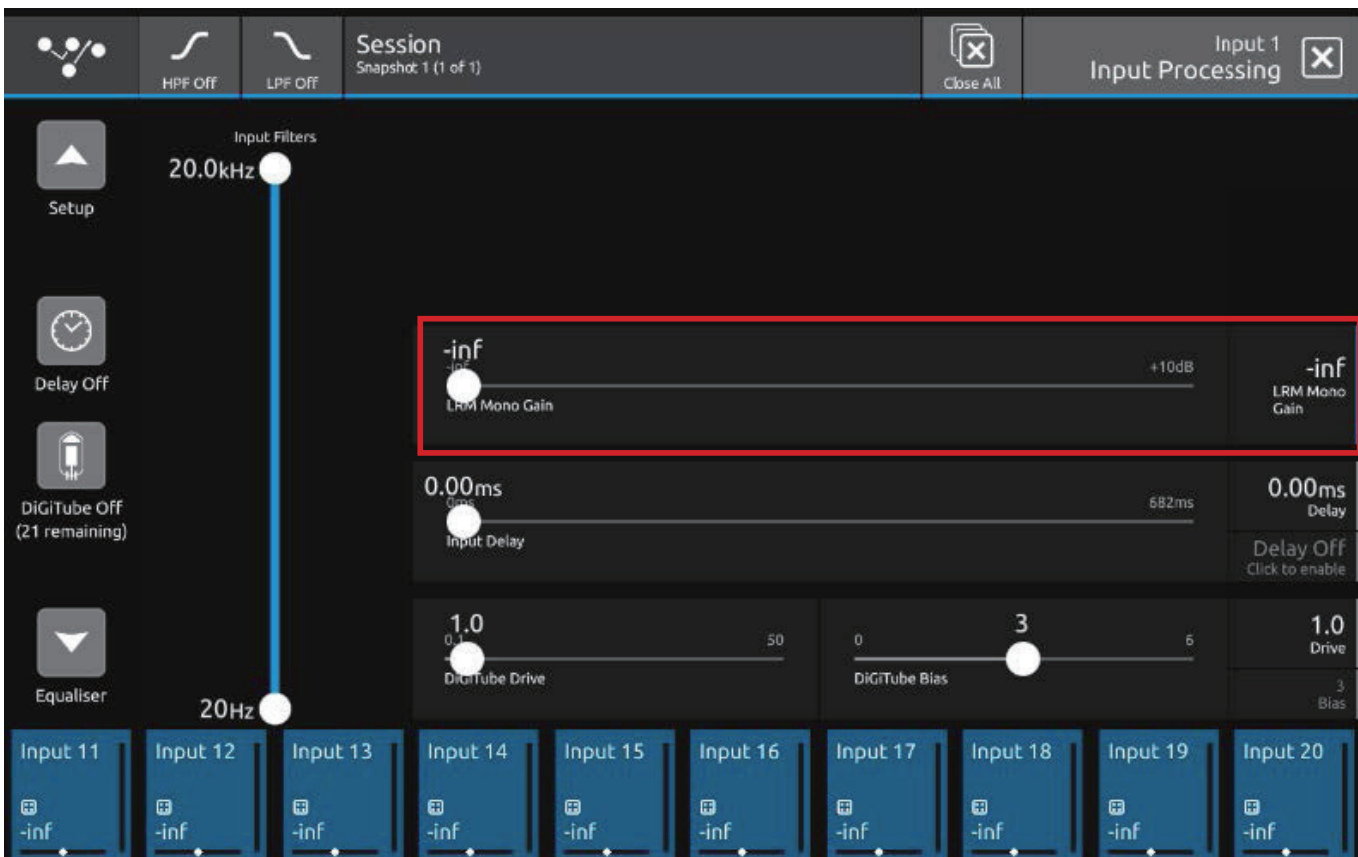
V3.0.9 では、マスターバスを標準のモノラルとステレオに加えて、LCR (Left Centre Right) または LRM (Left Right Mono) に設定することができるようになりました。



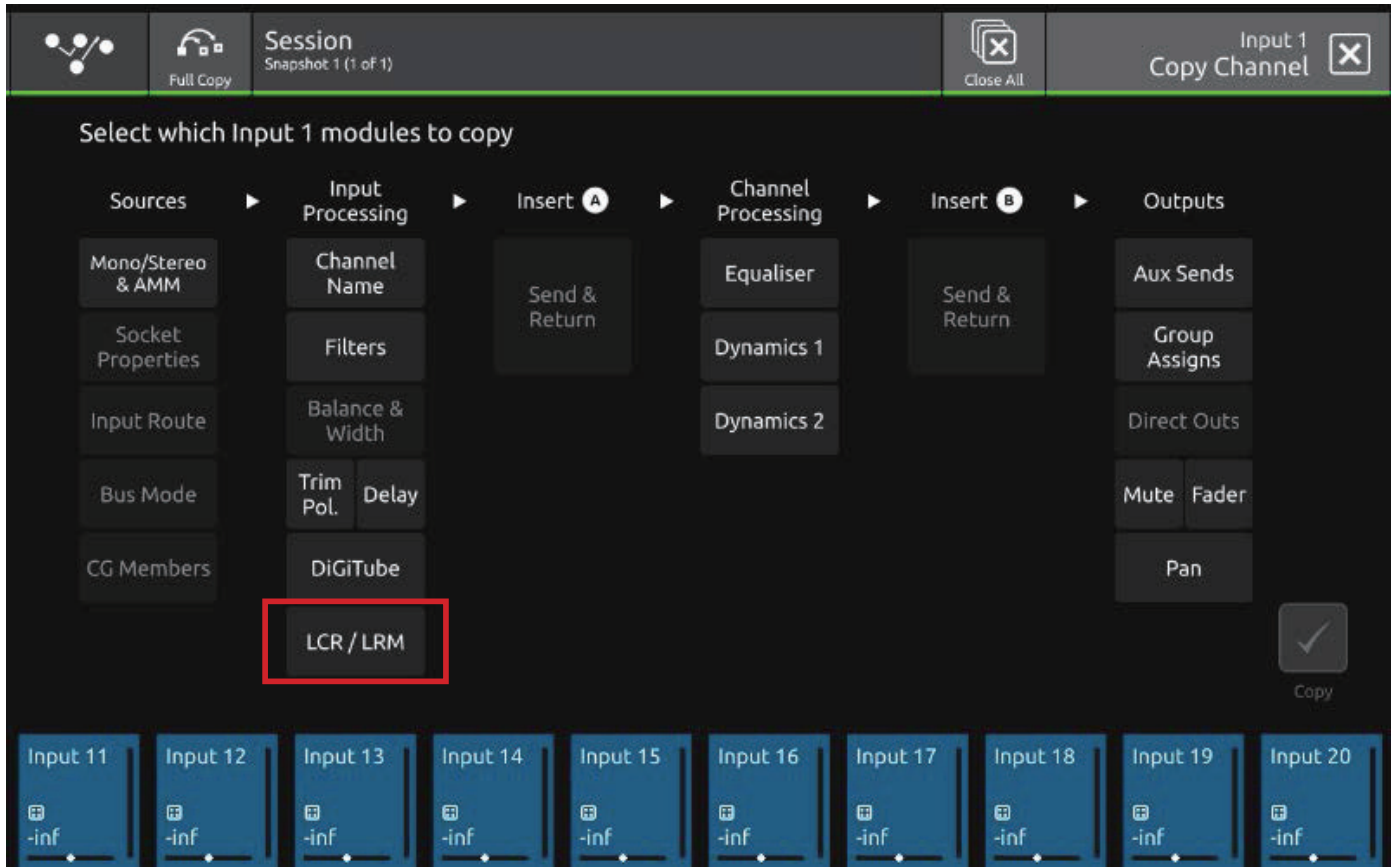
マスターバスのチャンネルを選択すると、画面左上のドロップダウンメニューから LCR と LRM にアクセスできます。



マスターバスが LCR モードに設定されている場合、各入力チャンネルは「input processing」ページに「LCR Blend」というコントロールを持っています。これは、LCR マスターバスの中央に信号を送るために使用されます。



マスターが LRM モードに設定されている場合、各入力チャンネルには「input processing」ページに「LRM Mono Gain」というコントロールがあります。これは、LRM マスターバスのモノラルに信号を送るために使用されます。



「LCR Blend」または「LRM Mono Gain」のコントロールデータをあるチャンネルから別のチャンネルにコピーするには、Copy Channel ページの「Input Processing」欄からアクセスできます。

1.3 MADI SRC

このリリースは MADI SRC（サンプルレートコンバージョン）をサポートしており、接続された MADI デバイスと異なるサンプルレートでデスクを動作させることができます。

注意：MADI SRC 機能を使用するには、アップデートパッケージに含まれている DMI MADI ファームウェアのアップデート (v167+) が必要です。Main menu > System > DMI Slots で現在使用可能なカードのファームウェアを確認し、アップデートしてください。

MADI の動作モードは、Auto、Rack、MADI 64 の 3 種類から選択可能です。

MADI SRC は MADI 64 モードでのみ使用可能です。

MADI 動作モードは、DMI MADI カードの Input Route ビューで変更することができます。

Auto または Rack モードを使用している場合、SRC の状態（アクティブまたは非アクティブ）は MADI オペレーションモード ボタンの下に表示されます。

MADI 64 モードを使用している場合、SRC のステータスは接続されたデバイスのサンプルレートの下に表示されます。

The screenshot displays the 'Input Route' window for 'Input 1'. The main area shows a grid of MADI inputs (In 1 to In 56) under 'DMI 1: MADI'. On the right, the 'Port control mode' is set to 'Receive'. Below it, the 'MADI operation mode' is set to 'Madi64'. Underneath, the status 'Sample Rate Conversion Inactive' is shown. At the bottom, it indicates 'Input 1 input is routed from: DMI 1: MADI In 1'. The bottom of the window shows a row of 'Input 11' through 'Input 20' buttons, each with a '-inf' level indicator.

オートモードはコンソールへの MADI とラック接続をサポートします。オートモードでは、V2.6.1 での DMI カードの動作と同様に、DMI カードが MADI デバイスとラックの検出を担当します。オートモードは SRC をサポートしません。

ラックモードは、コンソールへのラック接続をサポートしています。ラックモードは SRC をサポートしません。

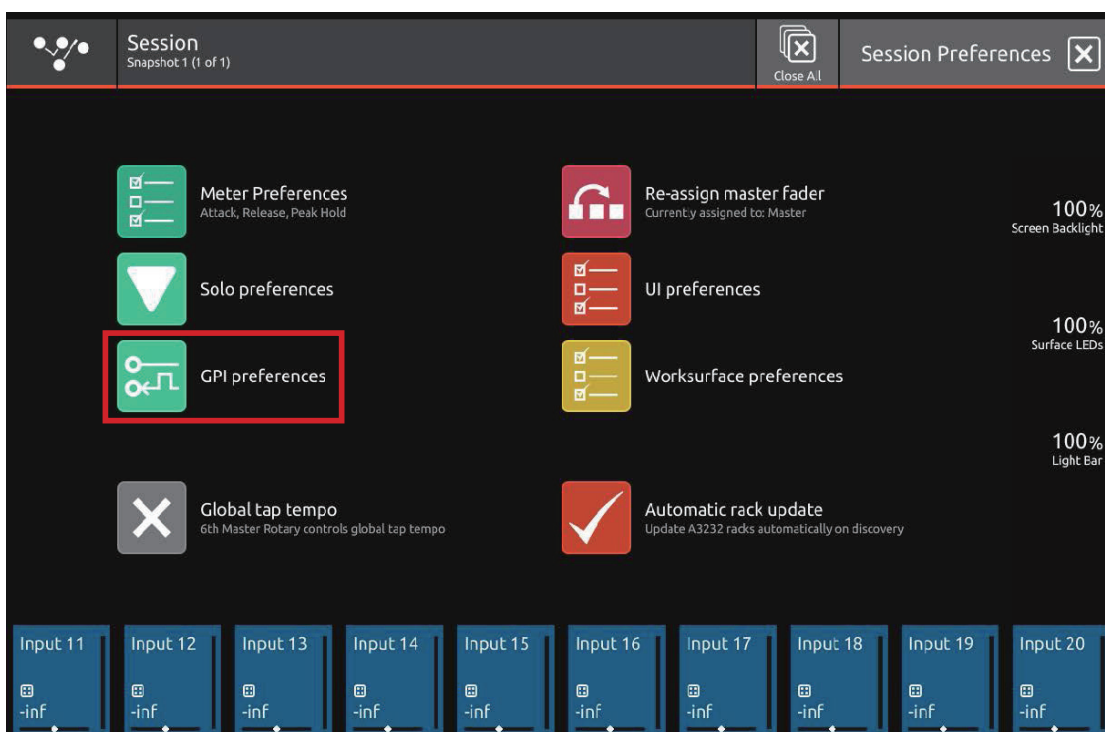
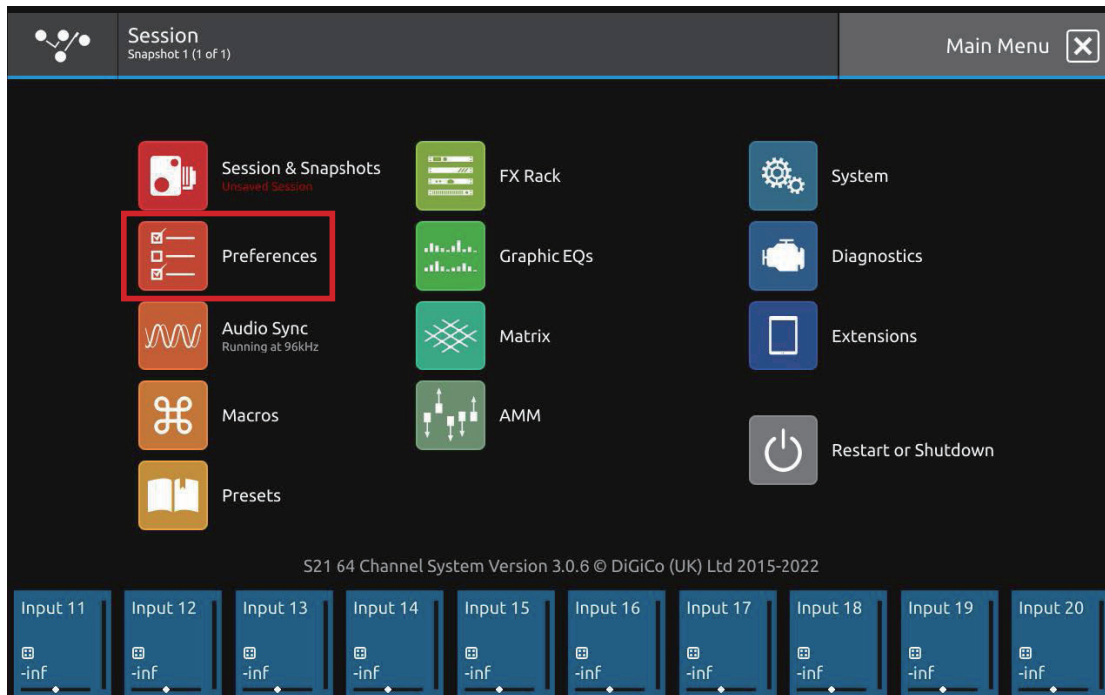
MADI 64 モードは、コンソールへの MADI 接続に対応しています。MADI 64 は SRC をサポートしており、接続されたデバイスのサンプリングレートは、Input Route ビューの右側、MADI 操作モードボタンの下で手動で選択することが可能です。使用可能なフォーマットは 48K、96K SMUX、96K High Speed の 3 種類です。

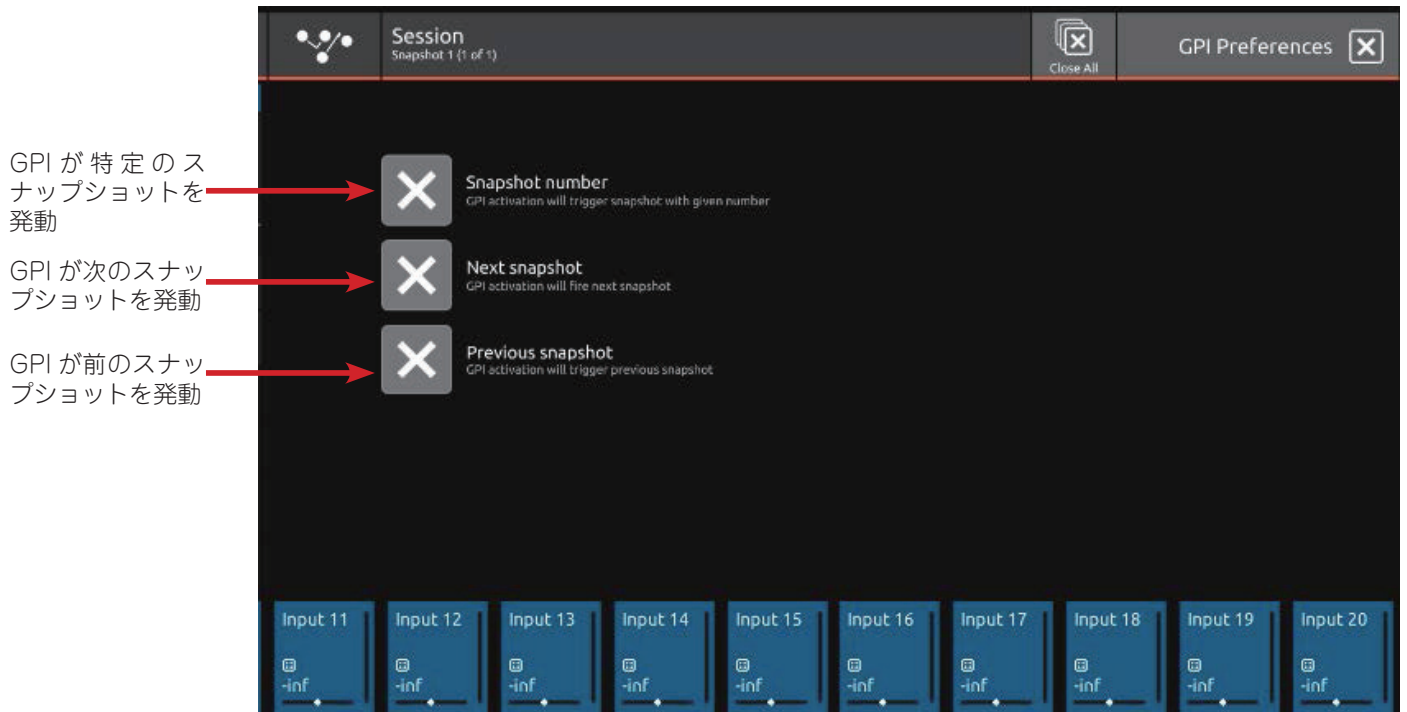
1.4 GPIO

最新のリリースでは、S-Series コンソール内で GPIO の使用を拡大するための新機能が追加されています。

GPI は GPI Preferences ビューを備えており、Preferences > GPI Preferences からアクセスします。

GPI 環境設定内で、前のスナップショット、次のスナップショット、またはオプション選択時に定義された特定のスナップショット番号をトリガーする GPI 入力をアサインすることができるようになりました。GPI 環境設定は、セッションに保存されます。

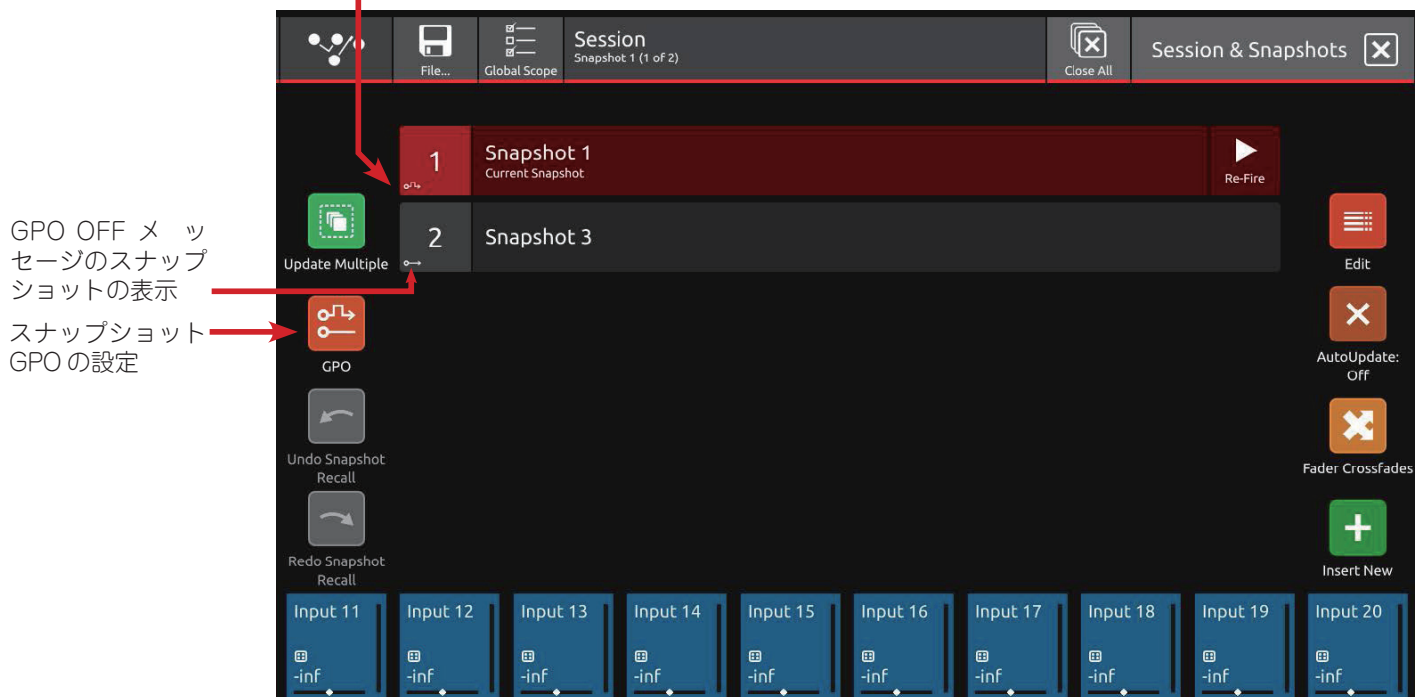




Session & Snapshots ビューの左側にある GPO Setup ビューで、スナップショットに GPO ON/OFF メッセージをアサインすることができるようになりました。スナップショットから送信される GPO メッセージは、該当するスナップショットの左下に、GPO ON メッセージは四角い矢印で、GPO OFF メッセージは直線の矢印で表示されます。スナップショットが GPO メッセージの送信に設定されていない場合は、この表示はありません。

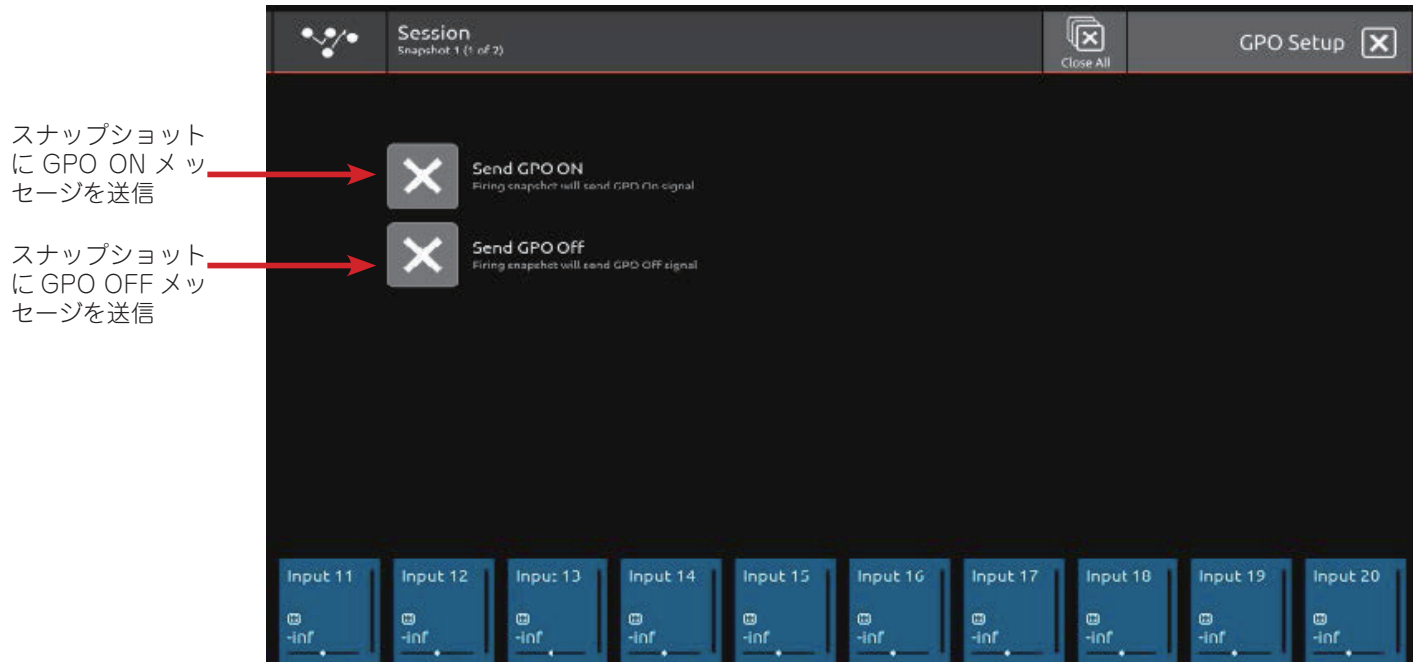
注意：GPO の ON/OFF をアサインせずにスナップショットを起動した場合、GPO の状態は前回起動したスナップショットの状態を保持することになります。

GPO ON メッセージのスナップショットの表示



GPO OFF メッセージのスナップショットの表示

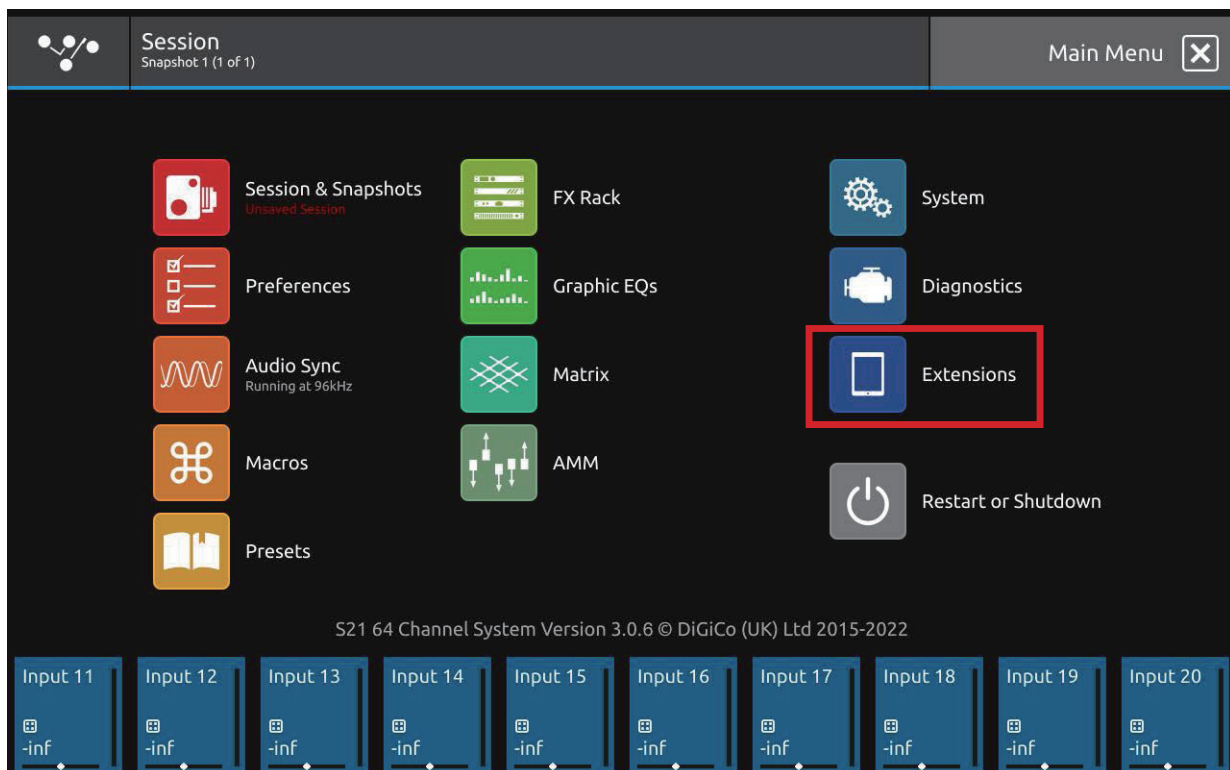
スナップショット GPO の設定

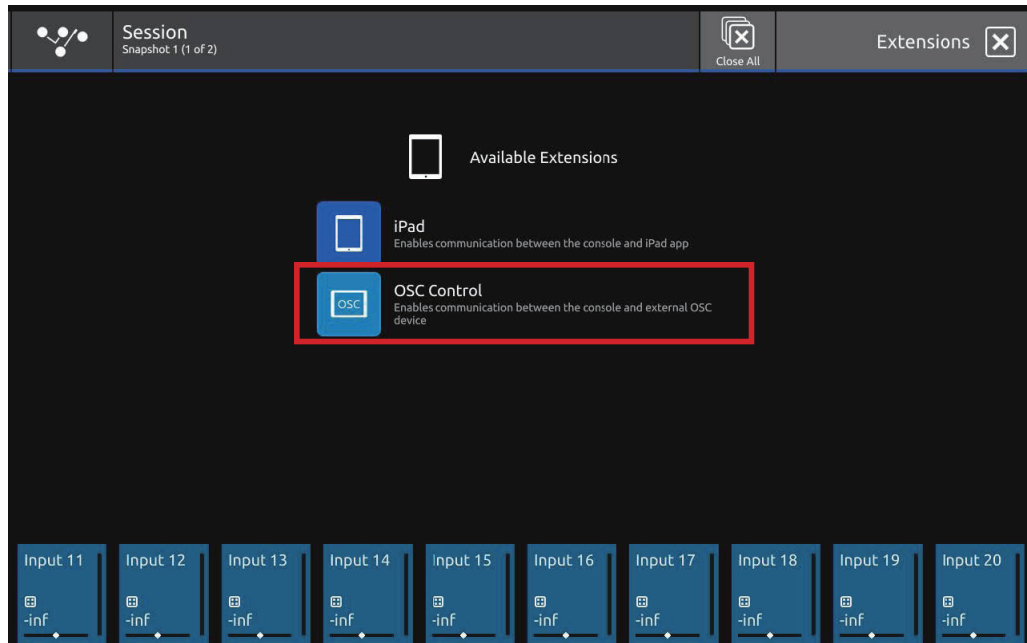


1.5 OSC コントロール

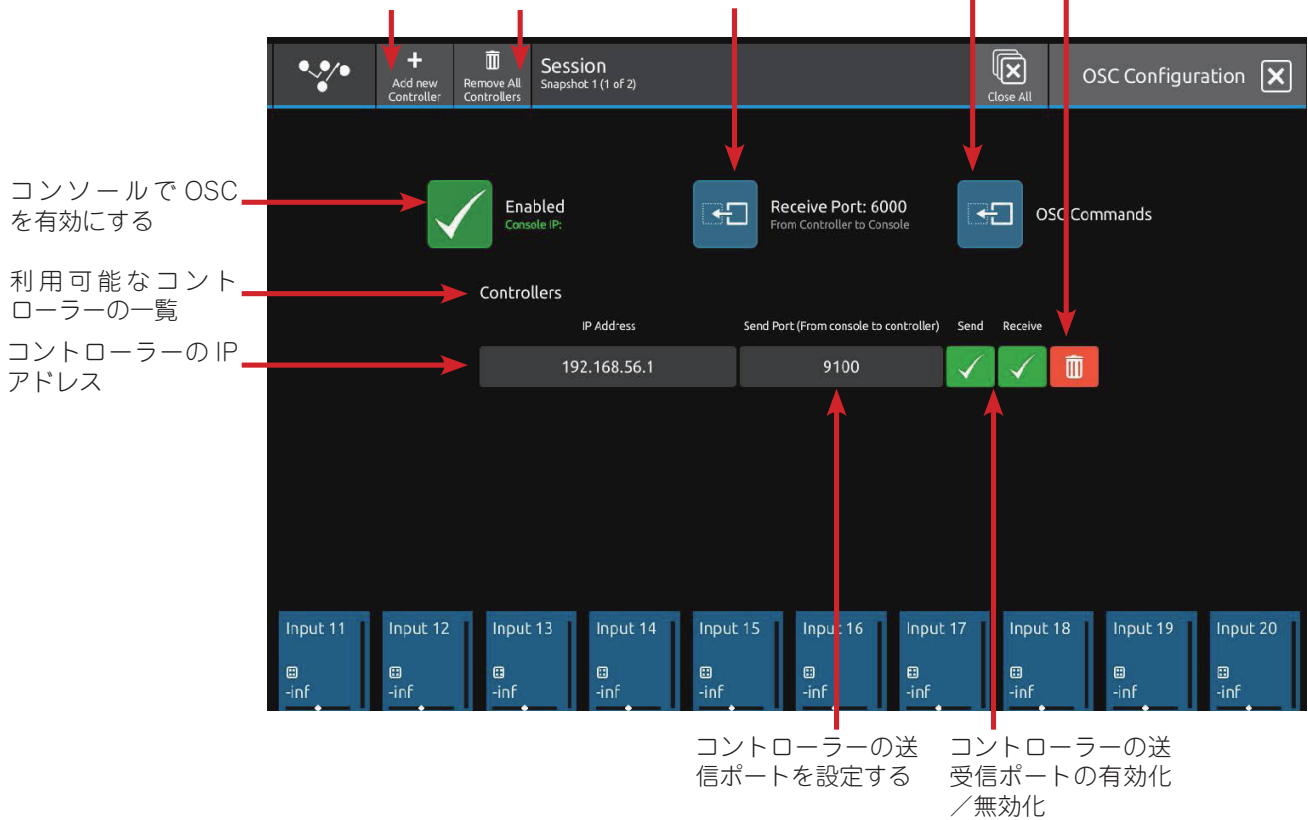
OSC(Open Sound Control)コントロールが拡張され、コンソールでコントロールできるパラメータが増えました。スナップショットの変更、チャンネル入力処理、EQ、ダイナミクス 1 & 2、Aux センドなどが含まれるようになりました。

OSC コントロールは、Extensions > OSC Control でアクセスできます。





新規コントローラーを追加 全コントローラーを削除 コンソールの受信ポートを設定する OSC コマンドを見る コントローラーを削除



コンソールで OSC を有効にする

利用可能なコントローラーの一覧

コントローラーの IP アドレス

コントローラーの送信ポートを設定する

コントローラーの受信ポートの有効化 / 無効化

利用可能な OSC コマンドのリストは OSC Commands ビューで確認できます。

利用可能な OSC コマンドは、OSC Commands ビューの左上にある File ボタンを使って、コンソールまたは外部 USB メモリに保存し、別のセッションでインポートできます。

OSC コマンドは、Edit Commands ボタンをタッチして編集することができます。編集モードでは、コマンド名をタッチすることで個々のコマンドを無効にしたり、再び有効にしたりすることができます。OSC アドレスを選択すると、画面上にキーボードが表示され、OSC アドレスを変更できます。値の種類と範囲は、個々の値をタッチすることで、Types & Range 欄の個々のコマンドに対して変更することができます。プール値や連続値は、OSC コマンド編集画面の中央上にあるボタンを使って、すべてのコマンドの初期化およびデフォルト復元が可能です。

コマンドは、送信と受信、送信のみ、受信のみの 3 つのモードで動作します。各コマンドのプリセットモードは変更できず、OSC コマンドリストの OSC コマンド名の右側に、可能なデータフローを表す矢印が表示されます。すべての OSC コマンドは、Resend All ボタンを使ってコンソールから受信デバイスに再送信することができます。

OSC Commands ビューのトッパーには、OSC コマンドの詳細情報を表示するヘルプボタンが配置されています。これには、現在のすべてのチャンネルとバスの名前と、それに関連する OSC チャンネル番号のリストが含まれます。

Channel Mappings		OSC Command Help
Osc Channel number	Channel name	
1	ONE	<p>By default the commands are enabled. In order to disable/enable commands, tap on the command name.</p> <p>The Type & Range column shows the command parameter type and range. The parameter can be normalised, i.e. continuous ranges can be limited to range of 0.0..1.0 and booleans to use 0/1 instead of true/false. To enable normalisation on a command, enter the edit mode and click on the type/range button.</p> <p>Boolean command parameters can also be inverted. To invert command, enter the edit mode and click on the invert button next to the range button.</p> <p>In order to query a value from the console, send the OSC command without parameters. Note that because S-Series busses can each be in either GROUP or AUX mode, the OSC number associated with any given buss might apply to either a Group or Aux Buss and changing the Buss Mode will not change the OSC number.</p> <p>A default new session with increased channel and buss capability will contain 10 Aux Busses (Buss Master Channels 70-79) and 14 Group Busses (Buss Master Channels 80-93)</p> <p>The OSC addresses may contain parameters such as channel number, send number, EQ band number etc. They are indicated with curly brackets in the address, e.g. {channel}. Apart from these parameter parts the OSC address for each command may be modified as long as it respects the OSC format.</p> <p>The message for the last (4th) EQ Band Gain control on the second Input Channel would be: /Channel/2/EQ/3/gain.</p>
2	TWO	
3	THREE	
4	FOUR	
5	FIVE	
6	SIX	
7	Input 7	
8	Input 8	
9	Input 9	
10	Input 10	
11	Input 11	

注意：すべてのチャンネルは OSC 番号で参照されます； 入力チャンネル：1-60、Aux：70-79、グループ：80-93、マトリクス：100-107、CG：110-119、Master Buss: 120. ソロ 1、ソロ 2 は OSC でコントロールできません。

上記の数値は、デフォルトセッションのもので、例えば Aux をグループに変更した場合、OSC の番号は変わりません。

OSC コマンドの書き出し / 読み込み

OSC コマンドの編集

すべての OSC コマンドを再送信

OSC ヘルプ情報

コマンド値の種類と範囲

OSC コマンドリスト

OSC アドレスの一覧

コマンドの送受信モード表示

Command	Type & Range	OSC Address
Fire Snapshot	int	/digico/snapshots/fire
Next Snapshot	-	/digico/snapshots/fire/next
Previous Snapshot	-	/digico/snapshots/fire/previous

Command	Type & Range	OSC Address
Input Trim	float -40..40	/channel/{channel}/input/trim
Input Delay	float 0.0..562	/channel/{channel}/input/delay/time
Delay Enabled	false/true	/channel/{channel}/input/delay/enabled

Input 11 -inf

Input 12 -inf

Input 13 -inf

Input 14 -inf

Input 15 -inf

Input 16 -inf

Input 17 -inf

Input 18 -inf

Input 19 -inf

Input 20 -inf

OSC コマンドの変更の
リセット、読み込み、書き出し

ブール値の初期化および
デフォルト復元

連続値の初期化および
デフォルト復元

Command	Type & Range	OSC Address
Fire Snapshot	int	/digico/snapshots/fire
Next Snapshot	-	/digico/snapshots/fire/next
Previous Snapshot	-	/digico/snapshots/fire/previous

Command	Type & Range	OSC Address
Input Trim	float -40..40	/channel/ [channel] /input/trim
Input Delay	float 0..0.682	/channel/ [channel] /input/delay/time
Delay Enabled	Inverted false/ true	/channel/ [channel] /input/delay/enabled

Input	Type & Range
Input 11	-inf
Input 12	-inf
Input 13	-inf
Input 14	-inf
Input 15	-inf
Input 16	-inf
Input 17	-inf
Input 18	-inf
Input 19	-inf
Input 20	-inf

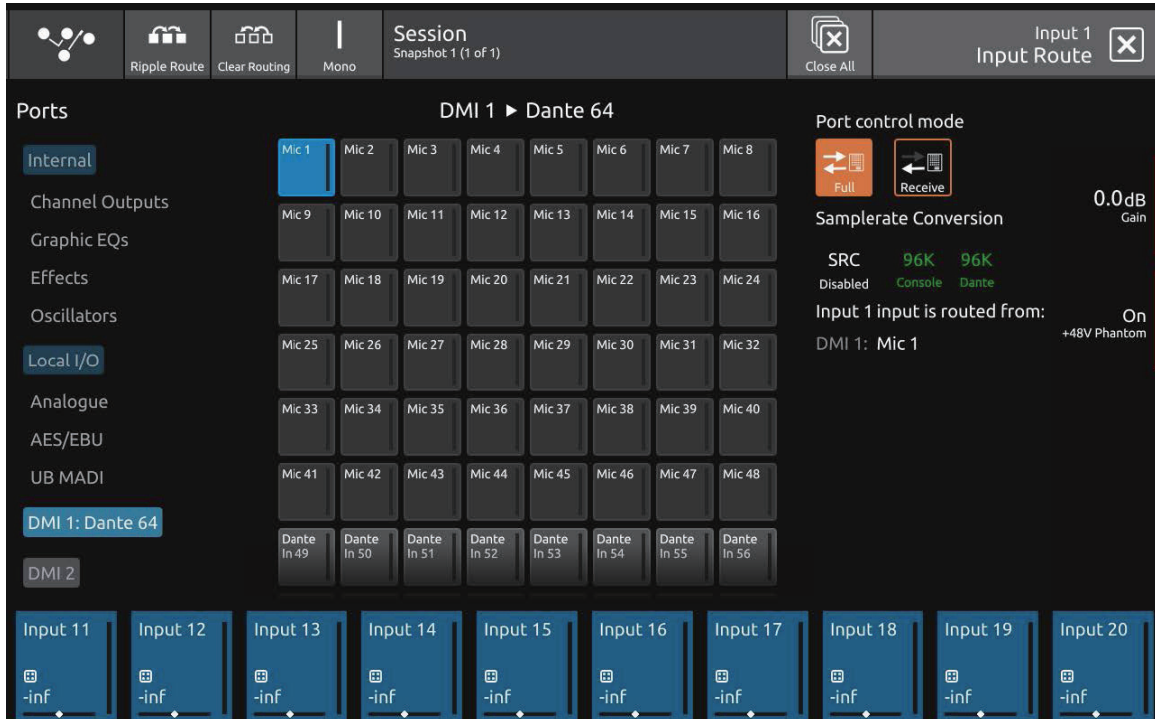
編集可能領域に、ハイライトが入る

1.6 DQ Rack の互換性

DQ Rack は、DANTE 64@96 DMI カードを介して S-Series と互換性を持つようになりました。

DQ ラックの 48 入力チャンネルには、専用のゲインコントロールとファンタム電源コントロールがあります（入力ルーティングのページ）。

注意：ライン / AES 出力スイッチは、ラック本体からのみ操作可能です。



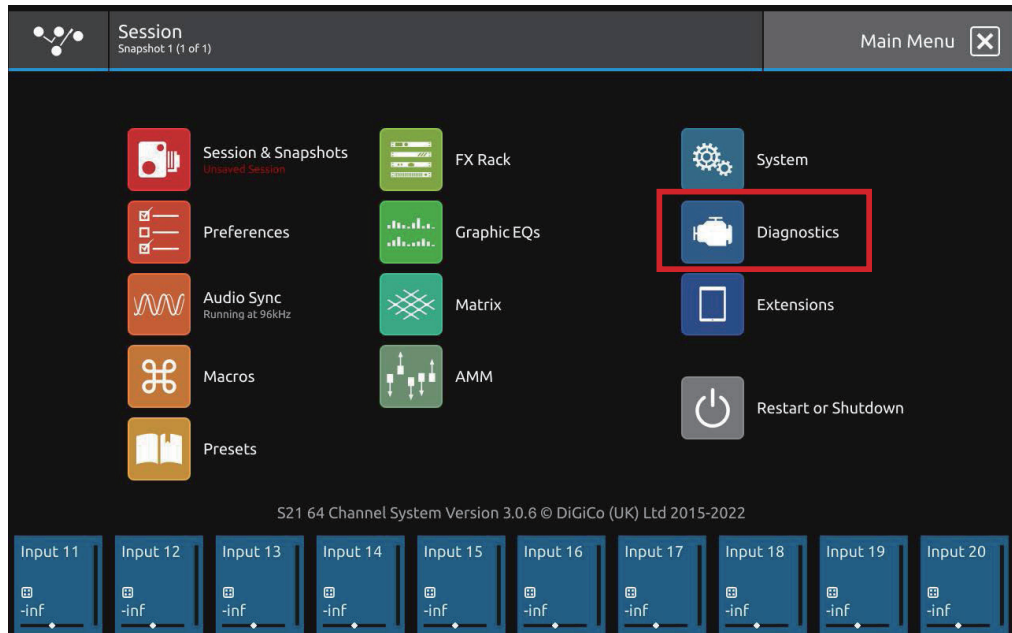
1.7 その他の新機能

TenTap Delay のディレイタイムを Global Tap Tempo で設定できるようになりました。

ダイナミック EQ のパラメータにギャンギングが追加されました。

1.8 S21/S31 ソフトウェアとファームウェアのアップデート

コンソールの現在作動中のソフトウェア、エンジンのファームウェア・バージョン、ワークサーフェス・コード、その他のコンソールの詳細は、Diagnostics ビューで確認できます。



ソフトウェアのバージョン

エンジンのファームウェア

ワークサーフェス・コード

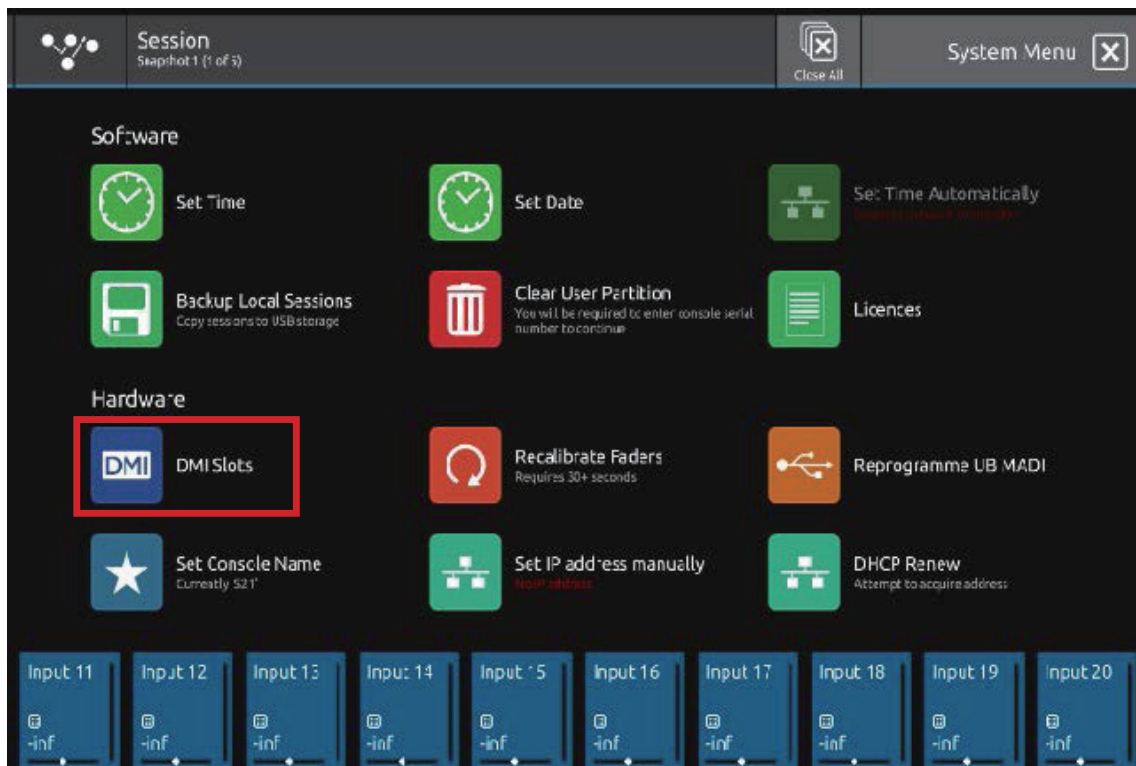
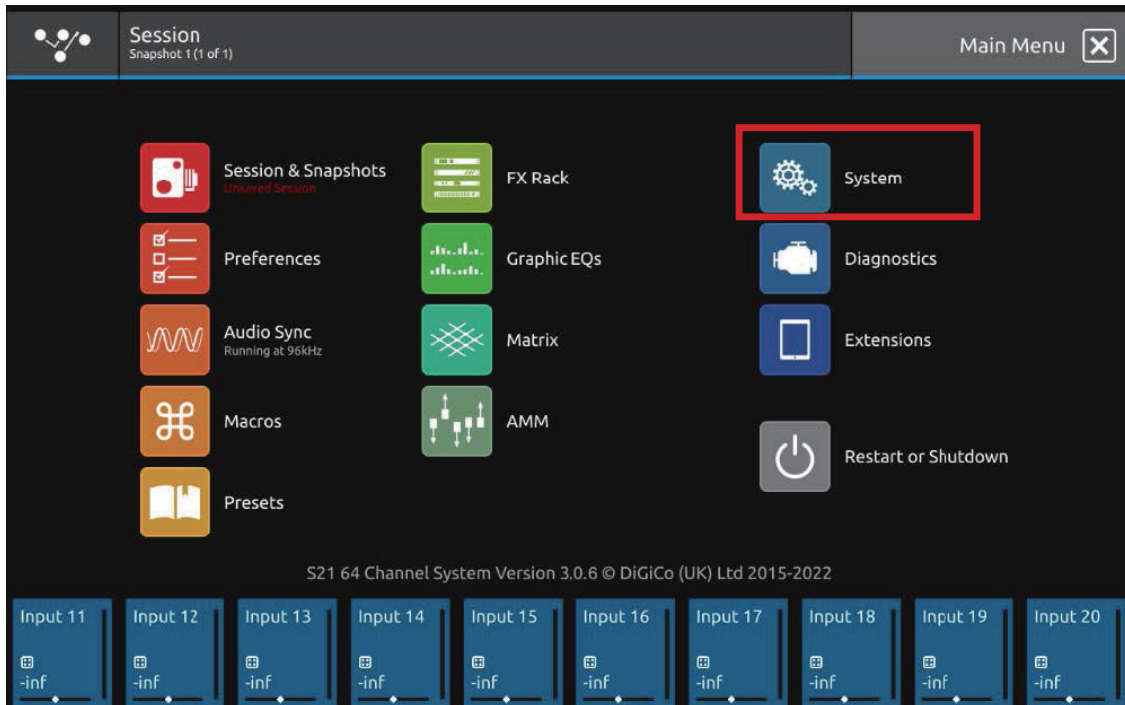


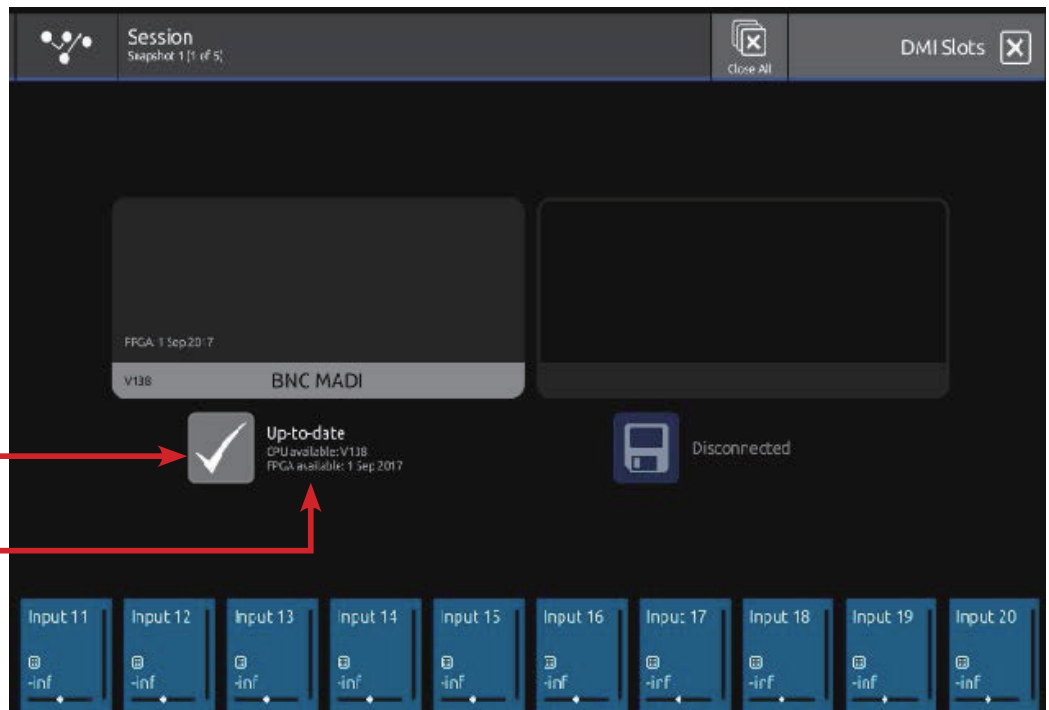
DMI カードのファームウェアは、System > DMI Slots からアクセスできる DMI Slots ビューで確認および更新することができます。

注意：DMI ファームウェアのアップデートを行う前に、すべての外部デバイスが DMI カードから取り外されていることを確認してください。

CPU と FPGA のファームウェアのバージョンを両方更新する場合、2 回の更新が必要です。CPU のアップデートが先に行われ、その後一時停止し、FPGA のアップデートが自動的に行われるはずですが、CPU と FPGA の両方が最新であることを確認し、最新でない場合は、再度「Update DMI Card」ボタンを押してください。

DMI カードに利用可能なファームウェアのアップデートがない場合、アップデートボタンは「Up-to-date (最新)」と表示されます。





アップデートボタン

DMI CPU と FPGA
ファームウェアの
バージョン

現在のリリースコードとバンドルされているファームウェアのバージョンは以下の通りです（赤字は v3.0.9 での変更点）。

Description	Version 2.6.1	Version 3.0.9
Software	2.6.1	3.0.9
Worksurfaces	66	66
Engine : FPGA	03/09/2015	26/03/2021
Engine : DSP	05/11/2015	08/11/2021
DMI A3232 : FPGA	24/01/2019	24/01/2019
DMI A3232 : CPU	239	239
DMI ADC : FPGA	08/12/2015	08/12/2015
DMI AES : FPGA	08/12/2015	08/12/2015
DMI AMM : FPGA	29/01/2019	29/01/2019
DMI AMM : CPU	207	207
DMI Aviom : FPGA	08/12/2015	08/12/2015
DMI DAC : FPGA	08/12/2015	08/12/2015
DMI Dante : FPGA	02/03/2016	02/03/2016
DMI Dante 64 : FPGA	06/08/2019	27/10/2021
DMI Dante 64 : CPU	102	104
DMI Hydra : FPGA	08/12/2015	08/12/2015
DMI Hydra : CPU	222	222
DMI MADI : FPGA	01/09/2017	28/02/2019
DMI MADI : CPU	138	167
DMI-ME : FPGA	04/02/2019	04/02/2019
DMI-ME : CPU	238	238
DMI MIC : FPGA	21/06/2019	21/06/2019
DMI MIC : CPU	243	243
DMI Waves : FPGA	22/02/2016	22/02/2016

注意：DMI カードの CPU バージョンが指定されていない場合、一般的な CPU バージョンは 83 です。